



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成30年2月5日

上場会社名 ヒビノ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2469 URL <http://www.hibino.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日比野 晃久

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員ヒビノGMC経営企画本部長 (氏名) 大関 靖

TEL 03-3740-4391

四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	20,372	0.5	498	△71.6	1,110	△41.2	674	△48.3
29年3月期第3四半期	20,264	△4.5	1,757	△38.3	1,887	△36.2	1,303	△28.5

(注)包括利益 30年3月期第3四半期 715百万円 (△46.8%) 29年3月期第3四半期 1,345百万円 (△25.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	67.34	—
29年3月期第3四半期	130.18	—

(注)当社は、平成29年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益金額」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	22,938	9,001	39.2
29年3月期	22,430	8,586	38.3

(参考)自己資本 30年3月期第3四半期 9,001百万円 29年3月期 8,586百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
30年3月期	—	15.00	—		
30年3月期(予想)				15.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)当社は、平成29年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

3. 平成30年 3月期の連結業績予想(平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	3.0	1,650	△17.9	2,000	△7.4	1,350	△10.0	134.87

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2 社 (社名) Hibino USA, Inc.、H&X Technologies, Inc. 、 除外 1 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	10,265,480 株	29年3月期	10,265,480 株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	255,820 株	29年3月期	255,820 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	10,009,660 株	29年3月期3Q	10,009,777 株

(注)当社は、平成29年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、個人消費や輸出が持ち直し、設備投資も緩やかに増加するなど、総じて緩やかに回復しました。一方で、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響が懸念され、先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような状況のもと当社グループ（当社と連結子会社14社）は、3ヵ年の中期経営計画「ビジョン300」（平成28年3月期～平成30年3月期）に基づき、「音響」「映像」「音楽」「ライブ」分野における多角化とシナジーの創出により強い事業構造を構築する「ハニカム型経営」の実践に取り組んでおります。

日本、アジア、北米、欧州でのワールドワイドな事業展開を目指す「世界4極体制」の構築に向け、第1四半期には、アメリカ・カリフォルニア州に「Hibino USA, Inc.」及び「H&X Technologies, Inc.」の2社を設立いたしました。

当第3四半期連結累計期間は、平成29年3月期第3四半期に連結子会社としたヒビノアークス株式会社が寄与しましたが、特定ラジオマイクの周波数移行に伴う特需の剥落、大型案件の第4四半期集中や納期の延期等の影響により、売上高は前年同四半期と同水準となりました。営業利益は、利益貢献度の高い特需売上高が減少したこと、一部の連結子会社で損失を計上したこと等により前年同四半期を下回りました。経常利益は、固定資産受贈益の増加等により、営業利益に比べ減少幅が抑えられました。

これらの結果、売上高20,372百万円（前年同四半期比0.5%増）、営業利益498百万円（同71.6%減）、経常利益1,110百万円（同41.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益674百万円（同48.3%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

[音響機器販売・施工事業]

音響機器販売・施工事業は、施工業務を行うヒビノアークス株式会社を前第3四半期に連結子会社としたことにより前年同四半期と比べ増収となりましたが、特需剥落の影響が大きく減益となりました。

機器販売業務においては、設備市場、放送局市場の設備投資意欲は旺盛であるものの、大型案件が第4四半期に集中していることや、一部案件で納期が次期以降に先送りとなったことも相まって苦戦を強いられました。

施工業務においては、放送局、スタジオ、ホール等の大型案件を手掛け、堅調に推移いたしました。ヒビノアークス株式会社の業績は、主要顧客である官公庁・自治体等への納期に対応して第4四半期に偏重することから、当第3四半期連結累計期間は販売費及び一般管理費等の恒常的に発生する固定費を吸収するには至りませんでした。

これらの結果、売上高は10,974百万円（前年同四半期比3.1%増）、セグメント利益110百万円（同86.6%減）となりました。

[映像製品の開発・製造・販売事業]

映像製品の開発・製造・販売事業は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向け、設備投資の拡大やインバウンド需要の高まり、都市圏の再開発事業の増加等を背景に、大型映像装置の新設・リニューアルに向けた引き合いが増加しております。当第3四半期は大型案件がなく、納期が集中する第4四半期に向けて受注済み案件の着実な遂行と、次期以降の新規案件の発掘に取り組みました。

これらの結果、売上高は559百万円（前年同四半期比28.2%減）、セグメント損失43百万円（前年同四半期はセグメント利益18百万円）となりました。

[コンサート・イベント事業]

コンサート・イベント事業は、主軸であるコンサート市場において前年同四半期ほどの伸長は見られなかったものの、安定的に受注を確保いたしました。一方、企業イベント、コンベンション市場の需要は引き続き過去最高水準で推移しておりますが、隔年開催の大型イベントである東京モーターショーは、外部環境の変化等により前回開催時ほどの受注獲得には至りませんでした。また、海外子会社2社の立ち上げ期における損失もあり、売上高及び利益は前年同四半期を下回りました。

これらの結果、売上高は8,455百万円（前年同四半期比0.6%減）、セグメント利益1,221百万円（同21.8%減）となりました。

[その他の事業]

その他の事業は、業務用照明機器の販売、システム設計・施工・メンテナンスを行っております。

売上高は382百万円（前年同四半期比14.6%増）、セグメント利益18百万円（同83.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は22,938百万円となり、前連結会計年度末と比べて507百万円増加しました。これは機械装置及び運搬具が増加したことが主な要因であります。

負債合計は13,937百万円となり、前連結会計年度末と比べて92百万円増加しました。これは短期借入金が増加したことが主な要因であります

純資産合計は9,001百万円となり、前連結会計年度末と比べて415百万円増加しました。これは利益剰余金が増加したことが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績が計画を下回って推移しておりますが、音響機器販売・施工事業及び映像製品の開発・製造・販売事業において第4四半期に売上高及び利益が集中することから、平成29年5月12日に公表しました予想数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,400,991	2,521,831
受取手形及び売掛金	7,115,637	5,814,834
商品及び製品	2,699,451	2,893,023
仕掛品	365,250	776,687
原材料及び貯蔵品	95,617	109,026
その他	893,800	874,668
貸倒引当金	△86,634	△57,353
流動資産合計	13,484,114	12,932,717
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,665,561	2,070,670
減価償却累計額	△1,104,403	△1,158,420
建物及び構築物（純額）	561,158	912,250
機械装置及び運搬具	10,226,997	11,811,572
減価償却累計額	△7,113,830	△8,035,728
機械装置及び運搬具（純額）	3,113,167	3,775,844
工具、器具及び備品	1,253,372	1,414,996
減価償却累計額	△930,458	△1,040,380
工具、器具及び備品（純額）	322,914	374,615
リース資産	2,010,869	1,830,463
減価償却累計額	△1,319,750	△1,206,686
リース資産（純額）	691,119	623,776
その他	762,459	821,336
有形固定資産合計	5,450,818	6,507,823
無形固定資産		
のれん	1,068,001	934,707
その他	337,070	349,715
無形固定資産合計	1,405,072	1,284,423
投資その他の資産		
その他	2,151,521	2,266,078
貸倒引当金	△60,615	△52,231
投資その他の資産合計	2,090,905	2,213,847
固定資産合計	8,946,796	10,006,094
資産合計	22,430,911	22,938,811

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,296,042	2,213,098
短期借入金	1,817,517	3,339,626
1年内返済予定の長期借入金	1,119,432	1,046,468
リース債務	328,667	294,193
未払法人税等	176,779	145,476
賞与引当金	749,120	320,683
資産除去債務	49,630	49,630
その他	1,763,897	1,532,987
流動負債合計	8,301,086	8,942,164
固定負債		
長期借入金	2,643,422	2,079,460
リース債務	535,765	476,400
退職給付に係る負債	2,129,605	2,180,266
資産除去債務	23,586	97,456
その他	210,914	161,347
固定負債合計	5,543,294	4,994,930
負債合計	13,844,381	13,937,094
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,748,655	1,748,655
資本剰余金	2,054,027	2,054,027
利益剰余金	4,890,818	5,264,611
自己株式	△77,762	△77,762
株主資本合計	8,615,738	8,989,531
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,865	22,827
繰延ヘッジ損益	77	△87
為替換算調整勘定	27,729	50,274
退職給付に係る調整累計額	△70,956	△60,895
その他の包括利益累計額合計	△29,283	12,118
非支配株主持分	75	68
純資産合計	8,586,530	9,001,717
負債純資産合計	22,430,911	22,938,811

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	20,264,724	20,372,209
売上原価	13,031,917	13,225,501
売上総利益	7,232,807	7,146,707
販売費及び一般管理費	5,474,857	6,647,718
営業利益	1,757,949	498,988
営業外収益		
受取利息	556	634
受取配当金	4,005	4,399
固定資産受贈益	185,091	521,272
その他	66,929	132,751
営業外収益合計	256,583	659,057
営業外費用		
支払利息	48,252	36,086
持分法による投資損失	56,611	—
為替差損	8,304	4,575
その他	14,113	6,929
営業外費用合計	127,282	47,591
経常利益	1,887,250	1,110,454
特別利益		
段階取得に係る差益	77,949	—
特別利益合計	77,949	—
税金等調整前四半期純利益	1,965,199	1,110,454
法人税等	663,244	436,377
四半期純利益	1,301,955	674,076
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,067	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,303,023	674,082

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	1,301,955	674,076
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,224	8,960
繰延ヘッジ損益	29,506	△165
為替換算調整勘定	3,767	22,544
退職給付に係る調整額	9,959	10,060
持分法適用会社に対する持分相当額	△888	—
その他の包括利益合計	43,569	41,400
四半期包括利益	1,345,525	715,477
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,346,584	715,481
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,059	△4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	音響機器 販売・施工 事業	映像製品の 開発・製造 ・販売事業	コンサート ・イベント 事業	その他の 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	10,641,682	779,429	8,509,761	333,850	20,264,724	—	20,264,724
セグメント間の内部 売上高又は振替高	371,670	65,519	35,050	10,510	482,750	△482,750	—
計	11,013,353	844,948	8,544,811	344,361	20,747,475	△482,750	20,264,724
セグメント利益	826,655	18,750	1,562,122	9,861	2,417,389	△659,439	1,757,949

(注) 1. セグメント利益の調整額△659,439千円には、セグメント間取引消去△25,895千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△633,544千円が含まれております。全社費用は、主に当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「音響機器販売・施工事業」セグメントにおいて、当社は、平成28年12月1日に、当社の持分法適用関連会社である(株)JVCケンウッド・アークスの株式を追加取得し、連結子会社化いたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては850,912千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	音響機器 販売・施工 事業	映像製品の 開発・製造 ・販売事業	コンサート ・イベント 事業	その他の 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	10,974,426	559,443	8,455,649	382,689	20,372,209	—	20,372,209
セグメント間の内部 売上高又は振替高	68,285	5,544	147,942	6,115	227,888	△227,888	—
計	11,042,712	564,988	8,603,592	388,804	20,600,098	△227,888	20,372,209
セグメント利益又は損 失(△)	110,683	△43,653	1,221,036	18,087	1,306,154	△807,165	498,988

- (注) 1. セグメント利益の調整額△807,165千円には、セグメント間取引消去39,542千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△846,708千円が含まれております。全社費用は、主に当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。